

# 平成 29 年度ユネスコスクール年次報告書

## 1. 学校概要

学校名 奈良市立三笠中学校 (※正式名称を記載)

種 別  保育園・幼稚園  小学校  小中一貫<sup>※注1</sup>

中学校  中高一貫<sup>※注2</sup>  高等学校

教員養成大学  専修学校、各種学校

特別支援学校

その他 (例: 小中高一貫 )

※注1 義務教育学校を含む ※注2 中等教育学校を含む

所在地 〒 630-8125

奈良市三条川西町3の1

E-mail mikasa-j@naracity.ed.jp

Website http://www.naracity.ed.jp/jhs01/index.cfm/7.html

児童生徒数 男子 380 名 女子 352 名 合計 732 名

児童・生徒の年齢 12 歳 ~ 15 歳

## 2. 報告期間

平成 29 年 4 月 ~ 平成 30 年 3 月

※報告書提出時点 ~ 平成 30 年 3 月末までの活動は、予定 (見込み) として記載ください。

## 3. 活動内容

※記入にあたっては、末尾の留意事項も確認ください。

(1) 活動の概要 (800 字程度 + 活動内容を表す写真数枚)

※チェック事項 1-1、2-1 に対応

当校は、「よく考える人 進んでやる人 助け合う人」を校訓として、ESD をユネスコスクールとしての活動の一翼を担うものと捉え、ESD の実践を通して主体的、対話的に学ぶ力、地域社会に貢献し、感謝の心を持つ生徒の育成を目標とした。

具体的には、地域貢献、リーダー育成を柱に、①地域・社会貢献に係わる活動、②地域社会とのつながりに係わる教育、③世界遺産に係わる学習、④人権に係わる学習を行った。

### ① 地域・社会貢献に係わる活動

地域行事である祭りの運営、年 4 回の佐保川清掃活動に 150 名以上の生徒がボランティアとして参加した。奈良教育大学で行われる「ESD 子どもキャンプ」に参加し、奈良市内のユネスコスクールのメンバーとの交流を深めた。地域の防災訓練にも 100 名を超える生徒が運営スタッフとして参加し、避難誘導訓練、炊き出し訓練を行った。その他、募金活動等にも参加した。

## ② 地域社会とのつながりに係わる教育

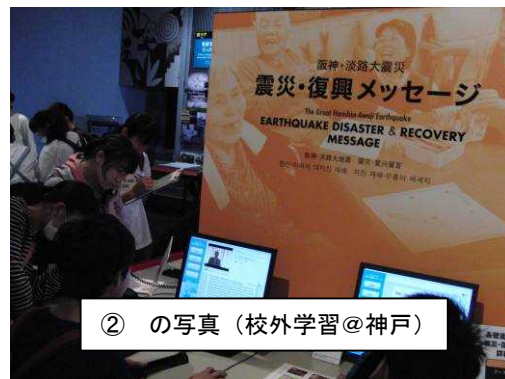
校外学習において、1学年は奈良公園や奈良町を中心とした班別行動を行い、周辺の世界遺産や地域遺産について学習を深めた。事後学習としてポスターを作成して発表し、学びの共有を行った。2学年は防災と多文化共生をテーマに、神戸を訪ね、阪神大震災や南京町についての調べ学習とポスターセッションを行った。修学旅行において、3学年は信州を訪れ、長野県のみなさんに世界遺産の町である奈良の伝統文化や観光など、地元奈良の持つ良さについて、プレゼンテーションを行った。

## ③ 世界遺産に係わる学習

先述の修学旅行における世界遺産プレゼンテーションのための学習や、社会科地理分野では世界各地の世界遺産について学習し、歴史分野で各国の歴史文化や異文化間の交流について、公民分野で国連教育科学文化機関（ユネスコ）についての学習や世界遺産についても学んでいる。

## ④ 人権に係わる学習

国語科において、各学年とも反戦平和や多文化共生、南北問題、環境問題等を扱った読み物教材を用いてESDへの理解を深めている。英語科では、国際理解教育や多文化共生の視点での学習を行っている。特に教科書内の読み物教材を通じて人種差別問題への理解を深めている。社会科では歴史上見られる人種差別問題・民族問題を通じて学習している。また、「自分も仲間も大切に宣言」と題した各学級の人権宣言の作成、人権作文・人権ポスター発表会を実施し、人権意識の啓発を行っている。



(2) 活動の詳細

① 活動内容

※チェック事項 1-2, 2-1 に対応

ア. 活動分野 (複数選択可)

<input checked="" type="checkbox"/> 1. 環境	<input checked="" type="checkbox"/> 2. エネルギー	<input checked="" type="checkbox"/> 3. 防災	<input checked="" type="checkbox"/> 4. 生物多様性
<input checked="" type="checkbox"/> 5. 気候変動	<input checked="" type="checkbox"/> 6. 国際理解、文化多様性	<input checked="" type="checkbox"/> 7. 地域の伝統文化、文化遺産	<input checked="" type="checkbox"/> 8. 人権・平和
<input checked="" type="checkbox"/> 9. 健康・福祉	<input checked="" type="checkbox"/> 10. 食育	<input checked="" type="checkbox"/> 11. 持続可能な生産と消費	<input checked="" type="checkbox"/> 12. 貧困
<input type="checkbox"/> 13. エコパーク	<input type="checkbox"/> 14. ジオパーク	<input type="checkbox"/> 15. グローバルシチズンシップ教育 (GCED)	
<input checked="" type="checkbox"/> 16. ジェンダー平等	<input checked="" type="checkbox"/> 17. その他 ( 世界遺産 )		

イ. 活動を通して育みたい資質や能力 (複数選択可)

<input type="checkbox"/> 1. 批判的に考える力	<input checked="" type="checkbox"/> 2. 未来像を予測して計画を立てる力
<input checked="" type="checkbox"/> 3. 多面的、総合的に考える力	<input checked="" type="checkbox"/> 4. コミュニケーションを行う力
<input checked="" type="checkbox"/> 5. 他者と協力する態度	<input checked="" type="checkbox"/> 6. つながりを尊重する態度
<input checked="" type="checkbox"/> 7. 進んで参加する態度	
<input type="checkbox"/> 8. その他 (自由記入 )	

ウ. 活動時間 (複数選択可)

<input checked="" type="checkbox"/> 1. 教科の時間	<input checked="" type="checkbox"/> 2. 総合的な学習の時間
<input checked="" type="checkbox"/> 3. 特別活動等	<input checked="" type="checkbox"/> 4. クラブ活動
<input type="checkbox"/> 5. その他 (自由記述 )	

エ. 使用した教材 (書籍、ウェブサイト、パンフレットなど具体名)

各教科書、奈良観光ガイドブック 独自で作成した教材
------------------------------

- ② ユネスコスクールとしての活動を各校の教育課程（指導計画）にどのように位置付けているか。指導内容を適切に定め、指導方法の工夫改善に努めているか。（200～300字程度）

※チェック事項 1-2, 1-3 に対応

国語科においては、反戦平和や多文化共生、南北問題、環境問題等を扱った読み物教材を用いて、ESDへの理解を深めている。

社会科においては地理分野では世界各地の世界遺産について、歴史分野では各国の歴史文化や異文化間の交流について、公民分野では国連教育科学文化機関（ユネスコ）について、また世界遺産についても学んでいる。

理科においては、環境問題、気候変動や生物多様性、エネルギー問題について学んでいる。

英語科では、国際理解教育や多文化共生の視点での学習を行っている。教科書内の読み物教材を通じて人種差別問題や世界遺産学習への理解を深めている。

音楽科では、日本の伝統音楽について学習し、実際に伝統楽器の体験を行っている。

- ③ 学校全体で組織的かつ継続的に活動に取り組める体制や環境をつくるため、どのような取組を行っているか。（200字程度）

※チェック事項 1-4 に対応

本校の部活動の1つとして「ユネスコ部」を作り、地域行事や地域ボランティア、ユニセフ募金活動などに継続的に取り組んでいる。本校は「コミュニティスクール」でもあることから、地域との関わりが深く、地域スタッフのみなさんに学校行事や学校運営に関わっていただいたり、教師・生徒が地域行事・地域ボランティアには積極的に参加したりしている。

また、生徒会主催で年4回のボランティア活動を行っており、毎回150名程度の生徒が参加している。

- ④ ユネスコスクールとしての活動の質の向上のための学校活動の評価（内部/外部）の方法・具体的内容と、それによって明らかになった成果と課題。（200字程度）

※チェック事項 1-5 に対応

毎年2回の学校評価アンケートを実施し、それぞれ同じ内容の質問を教員・保護者・生徒に対して行っている。その中で、「ボランティア活動によく参加している」に対しては、昨年度までと異なりボランティア参加の義務を完全に自由化したことで、例年より肯定的な数値は下がっているが、依然3割以上の生徒が「そう思う」と回答している。その他「人権や命を大切にしている」で9割、「総合的な学習をしたことで自分自身の成長に役立ったと思う」で7割以上の生徒が「そう思う」と回答している。

- ⑤ ESD の推進拠点としての活動成果の発信方法・内容と、発信により得られた効果。(200字程度) ※チェック事項 2-2 に対応

活動成果の発信については、主に学校のホームページで行っている。ボランティア活動の実施毎に、生徒の活動の様子・生徒の声を掲載している。学校内では、生徒総会の場合や、2学期最初にある文化交流会で、ユネスコ部の発表としてユネスコの理念を発信し、活動を広げる呼びかけを行っている。文化交流会では、ユネスコ部の年間を通じた活動についても写真とともに発表している。また、ボランティアだけでなく、ESDキャンプに参加した様子についてもホームページに掲載している。

- ⑥ 学校以外の団体との協働・交流・ネットワーク形成(地域コミュニティ、大学、ESD活動支援センター、ESDコンソーシアムとの連携など)  
(200字程度) ※チェック事項 2-3 に対応

奈良 ASP ネットワークという、奈良市近辺のユネスコスクールに加盟している学校園で作っているネットワークに参加。  
同じくユネスコスクールである奈良教育大学と奈良 ASP ネットワークが、ESD(持続可能な社会の担い手を育てる教育)を体験する機会として開催する「奈良 ASP ネットワーク ESD 子どもキャンプ」に参加し、奈良市内のユネスコスクールのメンバーとの交流を深めた。  
また、地域に密着する「コミュニティスクール」として、行事である祭りの運営、年4回の佐保川清掃活動に150名以上の生徒がボランティアとして参加した。

- ⑦ 国内外のユネスコスクールとの交流・ネットワーク形成(200字程度) ※チェック事項 2-4 に対応

上記の、「奈良 ASP ネットワーク ESD 子どもキャンプ」で、同じ奈良 ASP ネットワークに属している、奈良市近辺のユネスコスクールの小中学生と交流を深め、ともにしている。  
現時点ではそれ以外での交流はないが、来年度からキャンプがなくなることもあり、他の機会や、他のユネスコスクールとの交流・ネットワーク形成が課題である。

- ⑧ ユネスコスクールの活動による効果について、特筆すべき（特に強調したい）内容（例えば児童生徒、教員、カリキュラム・教授法、学校経営、地域・保護者との関係など様々な面でのポジティブな変化）（200字程度）  
※チェック事項 2-5 に対応

地域・社会貢献に係る活動で、地域を自分たちで整備したり、行事の運営に当たったりすることで、生徒たちに自分たちが暮らしている環境を支えてくれている方々への感謝の気持ちが芽生え、自分たちも地域に貢献するやりがいを感じることができ、地域への愛着が深まるとともに、将来地域の担い手となる展望を開くきっかけとなった。  
また、地域の方々と教員・地域の方々と生徒のつながりも増え、いろんな場面で協力しあえる環境になりつつある。

- (3) 平成 30 年度の活動計画（200～400字程度）

**4 月…佐保川さくら祭り**

地域行事であるさくら祭りにスタッフとして参加。運営にあたる。  
また、吹奏楽部が桜並木の下の野外ステージで演奏を行う。

**5 月…校外学習・修学旅行**

1 学年は奈良公園や奈良町、2 学年は神戸、3 学年は瀬戸内方面を訪れ、奈良の世界遺産や防災、平和学習などを行う。

**佐保川清掃**

校区内 4 か所に分かれて佐保川の清掃・花植えを行う。

**7 月…佐保川清掃**

地域行事である佐保川清掃生徒がボランティアとして参加。

**大宮祭り**

地域の夏祭りにスタッフとして参加し、準備・運営にあたる。

**11 月…佐保川清掃**

地域行事である佐保川清掃、春咲きの花を川辺の花壇に植えこむ作業を行う。生徒がボランティアとして参加。

**12 月…防災授業**

地域の防災スタッフを講師に招き、1・2 年生 500 余名が防災学習に取り組む。

**1 月…まほろば文化祭**

地域行事である文化祭に運営スタッフとして約 100 名の生徒が参加し、吹奏楽部とバトン部が出演予定。